

APHS 2023 参加報告

厚生連高岡病院 外科専攻医 菅野 圭

2023 年度 APHS に参加させていただきましたのでご報告申し上げます。今回はマレーシアの観光地の一つであるペナン島で開催されました。とても風情があり賑やかな街で、中心地であるジョージタウンでは現地の方や観光客の楽しそうな姿が見受けられました。

今回の目的は学会発表を行うことと、Suturing Workshop の運営者となることでした。そもそも APHS に参加させていただく機会を頂いたのは今村清隆先生にお誘いいただいたことに始まります。オンライン上で今村先生が開催しております縫合練習の会でお声がけいただき、APHS に参加する事となりました。その目玉が Workshop でした。日本では当たり前であるドライボックスの練習は海外の先生方には新鮮なもののようなものでした。インドネシアやマレーシアでの TAPP では腹膜閉鎖にタッカーを用いているとのことで、腹膜切開のモデルを用いた腹壁縫合の指導をさせていただきました。参加者の先生方の楽しんでいる姿を見ることができ、英語での指導、アドバイスを行うことで自分のトレーニングにもなりました。その夜は懇親会に参加させていただき、日本ヘルニア学会のご高名な先生方、海外の権威の先生方とお話することができ、大変貴重な機会でありました。

私の発表は oral セッションで、嵌頓ヘルニアにおける TAPP、open 法での比較、検討について発表してきました。同じセッションには自分と同じく女性の先生が多くいらっしゃり大変刺激になりました。初めての学会発表でしたが、なんとか乗り越えられたと思います。

APHS は私の夏の大会イベントでありました。今後の活動の活気に繋がったと思います。また同年代の仲間たち、指導いただいた先生方、沢山の出会いに感謝するばかりです。このような機会を与えてくださった今村先生、および日本ヘルニア学会の scholarship 援助をいただいた事、感謝申し上げます。

